

V 写真で追う復興

井田 裕基

【破壊されたまち】



大槌町 化粧品販売店を営んでいた伊藤さん 解体していた店舗の前で一人行んでいた。

大槌町 伊藤あき子さん

震災を忘れてはいないんだけど、前を見据えて歩いてかきやないし。ただ、亡くなった人、うちの人だけじゃないし、みんなどんな想いで逝ったんだろうなっておもうと可哀そうなの。こんなはずじゃなかったってみんな思っていると思うんだ。どんな想いで、逝ったんだろうな。それが切ない。だけどそればかりしも考えてられないから、今言ってみたいに、前を見据えていくんだけど、、生活は本当に変わった。まさかわたしがこんな事すると思わなかったね。夫が生きてたったら、こんな苦労しなかったって思う時もあるし。

でも今。皆さんに励まされているか。でもやっぱりお客さんも来て泣く方もいるっけよ。お客さんから褒められるの。“60過ぎて店やるってえらい！応援すっからやれよ”って。第二の人生、わたしこの仕事。

話したい。話したら、私から始め、止まらない。話したくてたまらないんだもの、自分の境遇を会った人に。こうやってお客さんも増えてきたし、楽しいし。何よりお客さん同士が笑ってお話してんのが、すごくいいと思って。

やっぱりここはいいまちだったのかもしれない。住み慣れていたからね。

皆さんに言いたい。高い堤防があるからって安心しないで、逃げてって。



伊藤さんは津波で夫を亡くした後、新しく飲食店を開店した。



2014年3月11日 大槌町庁舎

【進む復興 広がる矛盾】



2015年5月 山田町織笠 原木シイタケから基準値を超える放射能が検出された。



宮古市ゴミ処理場 住民の反対を押し切って、汚染されたホダ木を焼却処分した。



2015年10月 宮古市鍛ヶ崎 反対派と賛成派の意見がまとまることなく、巨大な防潮堤の建設が始まった。



宮古市高浜 防潮堤建設が計画されている砂浜からは絶滅危惧種の植物が見つかった。



大槌町 津波でアスファルトがはがされ、その下から多くの湧き水が見つかった。

【ふるさとの豊かさ】



2018年 大船渡市吉浜 スネカがユネスコの無形文化遺産された。震災直後から、郷土芸能が盛んに行われ、地域のコミュニティーや人々の心を支えるものとして注目された。



2019年3月 大船渡市 三陸国際芸術祭で、インドネシアの芸能団体と触れ合う赤澤鑑剣舞（大船渡市）の子どもたち郷土芸能を通して、県外や海外の人たちと交流する機会が増えた。



2019年2月 ワルシャワ 神楽中欧公演
宮古市の黒森神楽はポーランドとハンガリーに赴き、海外公演を行った。

【祈りと再生】



大船渡市末崎 震災後、各地から支援を受けて、ワカメの養殖が復活した。



津波甚句を披露する北村弘子さんと藤原マチ子さん
お二人は震災後の悲しみを「震災甚句」にして謳われている、
もう一つ甚句を作りたいと話しておられた、
それは復興がなったときに「喜び」を表す甚句である、



2019年11月 スタディツアー 大槌町吉里吉里 吉祥寺高橋英悟住職



2019年11月 釜石市 災害文化研究会スタディーツアー